

第8回七夕飾りでおもてなし

大方ライオンズクラブ主催の「七夕飾りでおもてなし」が今年も実施され、子どもたちが願いを込めた短冊が6月26日(土)から7月7日(水)までの期間、役場本庁舎と佐賀支所に飾られました。



本庁舎に飾られた七夕飾り

道が強く
なりませ
よに「お
金が増え
ますよう
に」など
の願いが
書かれて
いました。

お願いごとには、「コロナが早くおさまりますように」など、新型コロナウイルス感染症の終息を願うものが多く、そのほかにも「剣

この取組は、毎年町内園児・児童らから募った七夕飾りを同クラブや土佐くろしお鉄道が子どもたちと一緒に町内各駅に飾りつけをするもの。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちによる各駅への飾りつけが困難であったため、同クラブの会員らが役場へ飾りつけを行いました。

ウミガメが黒潮町で産卵

ウミガメが6月20日(日)、田野浦海岸へ産卵に訪れました。

この日産卵に来たのはアカウミガメ1頭。産卵が確認されたという地域住民からの情報提供を受け、黒潮町海亀保護員の阿部年博さんがその翌日に海岸へ向かい、123個の卵が確認されました。

毎年黒潮町の沿岸では、5月〜8月にかけてアカウミガメが産卵に来ることが確認されており、保護活動や調査の目的で保護員が掘り起こしをし、卵の個数の確認を行っている。また、海水が被る可能性がある場所や天敵に狙われる可能性がある場合などには、掘り起こした卵を安全な場所へと移動します。



卵の掘り返しに立ち会った子どもたち

卵したあ
とは初め
て見たけ
ど、すご
いと思っ
た「など
と笑顔で
話してい
ました。

子どもたちは、「ウミガメが産

まほろば Vol.10 くるしお

「まほろば」とは、素晴らしい場所・住みやすい場所という意味。まほろばな黒潮町で頑張る人や団体にスポットを当て、紹介するコーナーです(隔月掲載予定)。



黒潮町海亀保護員
阿部年博さん

2013年に愛媛県松山市から黒潮町へ移住。民宿と自転車屋を営むかたわら、黒潮町が募集していた「海亀保護員」へ応募し2016年から活動を始める。ウミガメの上陸や産卵、孵化などを見守りながら、「できるだけ自然な形で」と、地域住民の力も借りながらウミガメの産卵の一助となるよう活動を続けている。



砂の柔らかさを確認

ウミガメの保護活動を始めたきっかけは？
黒潮町で保護活動を行っていた初代の方がいて、その方の活動にご一緒させてもらったことがきっかけ。ウミガメが産んだ卵の掘り返しを1人でさせてくれたんですが、偶然、初めて掘ったところに卵があったんです。こういうことは稀らしくて、それから興味を持ちました。

ウミガメの保護活動を始めたきっかけは？

活動内容を教えてください
ウミガメは毎年5月〜8月頃、産卵のため黒潮町へ訪れます。出口〜佐賀まで、それぞ

活動で大切にしていること

ウミガメは、40年ほど経ってから自分が産まれた所へ帰ってきて、産卵をすと言われています。でも、砂浜の

形で産卵した様子があればその場所へ行き、産卵の有無や場所などを調査します。ウミガメの卵は水に浸かると窒息死してしまうので、産卵場所によっては卵を掘り返し、安全な場所へと移動したりもします。
産卵から孵化までは約60日ほど。砂の温度によって卵が還る日数や性別が変わりますが、産卵した卵のうち60%孵化したら上出来。子どもは夜中に砂から出てくるので、シーズンになれば毎朝4時頃様子を見に行きます。もう日課みたいなものですね。「産まれたら早く海へ返してやりたい」、そんな気持ちです。



息子さんと一緒に産卵の確認

地域の皆さんには、この活動を知ってほしいと思うと同時に、「自分が歩いていく砂の下には卵があるかもしれない」、そんな風にも思ってもらいたいかな。もちろん、子どもたちにもこの町の砂浜には、ウミガメが来て産卵することを知らせてもらいたいんです。でも、残念ながら直接見たり手で触れたりすることはできないんです。できるだけ自然な形で見守ってあげたいですからね。

広報に掲載しきれない内容や取材の裏話を町公式Facebookで紹介します。裏表紙のQRコードからご確認ください。